

## 平成二十九年宇佐地区研修

佐藤 周太

今回の研修先は宇佐神宮と県立歴史博物館(宇佐風土記の丘)です。十一月八日午前八時、二宮修二会長以下八名、挟間支庁舎を由布市所有のバスで出発。今回も坂本勝信さんに資料収集や関係先との調整と今日のガイドを担当して頂きました。感謝!

### 一・銭瓶峠と銭瓶石

挟間から三船、来鉢の石城小学校前を通り、七蔵司を抜けて別府へ向かう山越えの途中、銭瓶(ぜにがめ)峠に一旦下車しました。銭瓶峠は、東に大分市、南に挟間町、西に湯布院町、北に別府市へ通じる要衝です。今も別府と大分を結ぶ別大国道の脇道として重要な役割を果たしています。ここには、昔の道標も銭瓶石の傍に在りますが「前の場所に有った時に車がぶつかって折れたので背が低くなった」と丸野安比古さんが教えてくれました。銭瓶峠からは高崎山登山道へも行けます。

もう一つ、銭瓶峠には銭瓶石(通称カンカン石)が目立つ所に据わっています。銭瓶石は、昔の赤松村と七蔵司村の境界に置かれていたと云われています。今は境界に沿って2車線の舗装道路が走っているため、銭瓶石は由布市側の道路脇に案内板とともにあります。試しに小石で叩くとカンカン鳴りました。江戸時代、赤松村と七蔵司村で起きた境界を巡る「銭瓶石騒動」について二宮会長が説明してくれました。今は由布市に位置するのでしょうか。

バスに戻り銭瓶峠を出発、鳥越峠を通過してループ橋(九州では二ヶ所しかない)と坂本さんの説明あり)を渡り、更に東別府の隧道を抜けて浜脇へ下りて別府駅前・北浜バス停へ。そこで矢島嗣久さん以下三名と合流、総勢十一名で国道十号を宇佐へと向かいました。

### 二・宇佐神宮

宇佐神宮は全国八幡社の総本宮で宇佐市南宇佐に位置する小椋山(亀山)に本殿があります。

国道沿いの神宮駐車場から仲見世を通り神橋を渡ると大鳥居があります。大鳥居を抜けて、広く平坦な表参道を先に進みます、更に階段を上りきって西大門の脇をくぐると上宮があります。駐車場からは行程二十分以上かかりますので健脚が必要です。

上宮の本殿は一之御殿、二之御殿、三之御殿から成り、其々御祭神が祀られています。八幡造りの本殿は国宝に指定されています。皆さん二拝四拍手一拝のお参りをされていました。上宮では勅使門を背景に皆で記念写真を撮りました。上宮を散策した後は、表参道入口・仲見世まで歩いて下りました。途中で下宮に参拝した人もいたようです。参道を歩いていると杜に聳える檜や楠などの巨木・古木にも深い歴史を感じました。

宇佐神宮にはもう一つの国宝があります。それは宝物館に収蔵されている孔雀文磬(くじゃくもんけい)です。神宮資料によれば、「記念銘を持つ磬としては、わが国第一級の美術的価値を誇る」とあります。次の訪問地・県立歴史博物館には孔雀文磬のレプリカが常設展示されています。因みに、磬とは「中国起源の打楽器で、日本では主に声明(しょうみょう)の合図用」と辞典にあります。

境内の西方には「弥勒寺」がありました。今は「跡地」があるだけです。弥勒寺は七三八年建立、神仏習合文化発祥の寺とされています。先にも紹介した孔雀文馨は当寺に寄進されたと言うことです。

やがて正午が近づいたので仲見世の茶店で昼食にしました。私は「焼きダンゴ汁定食」にしましたが汁が美味でした。宇佐は鱧やネギや蕎麦など有名な産品が沢山あります。特に「鶏の唐揚げ」は全国区です。

### 三・大分県立歴史博物館

宇佐市大字高森字京塚にある「宇佐風土記の丘」は、県内最大の史跡公園として一九八一年に開園しました。園内には六基の前方後円墳があります。公園の中に建つ当館は常設展示と企画展示の二コーナーがあります。館内に入るとエントランスホール正面に熊野磨崖仏・大日如来像の原寸大複製が私達を迎えてくれます。学芸員女史の説明によると、「現地で型を取って作成しました」とのこと。風化の跡や石の窪みの小さな部分まで現物そっくりに作られています。実際の現地には柵がしてあって近寄れず細かい部分は見ることが出来ませんが、ここでは間近に見ることが出来ます。頭上の種子曼陀羅（仏の世界を梵字で表現したもの）も型取りしたものが展示され、目の前で見れました。

続いては、エントランスホール右手にある常設展示コーナーです。コーナーの入口左脇には数点の鰻絵の現物がありません。鰻絵は県内では宇佐市安心院に数多く現存し、家屋の壁や戸袋に描かれています。家屋の所有者が保存・修復が出来ないものを当館が譲り受けて

修復元した鰻絵を展示しています。何れも見事な出来栄です。

続いて奥の常設展示コーナーに入ると、正面に富貴寺大堂（国宝）の世界が目に入ります。ここでは大堂正面の建物が模擬復元され、中に木造阿弥陀如来坐像の複製を安置しています。更に、室内周囲の壁には極楽往生の世界が色鮮やかに再現されています。間近に細部まで見れます。他のエリアには、宇佐八幡の文化、六郷山の文化、臼杵磨崖仏（国宝）の複製や、野津原・後藤家住宅の内部を復元した展示もあります。また、赤塚前方後円墳切断面の模型もあります。

次は、エントランスホール左手にある企画展示コーナーです。

ここでは今年二〇一八年（平成三十年）に、開山一三〇〇年を迎える六郷山を記念して「開山一三〇〇年記念 聖なる山―六郷満山と仁聞―」特別展開催中でした。仁聞菩薩像、人間菩薩朝記をはじめ、七十三点もの展示品があり、学芸員女史に七一八年（養老二年）の仁聞（にんもん）による開山から現在の宇佐・国東半島の仏教文化に至るまでを詳しく説明していただきました。女史には要所のみ説明頂いたので集合までの残り時間は自由時間として各自で館内の展示品を見て回りました。

研修は午後三時に終了、別府北浜経由で銭瓶峠を越え、挟間支庁舎には定刻の午後四時半に戻りました。皆さんお疲れさまでした。

由布市ドライブバーさん安全運転ありがとうございました。

\*注 「仁聞」は、八幡神の化身とされている六郷満山の開祖。以前は「人間・にんもん」と称した。